

## ОПОРА RUSSIA FUKUOKA

この4月25日に、北橋健治・北九州市長から預かった「親書」を特使の上野 浩氏が、オーポラロシア セルゲイ・ボリソフ会長へ渡していた（上記写真）が、その返書をオーポラロシア福岡の田村文彦会長から北橋市長へ直接手渡たされた。（二段目の写真）



又、北九州市とオーポラロシア福岡が、北九州市及び周辺地域を中心とした全産業を対象にして、情報が少ないロシアのあらゆる産業との交流や提携の橋渡し役となる「調査及び業務提携」の締結を結んだ。（三段目の写真）

同時に、オーポラロシア福岡・北九州オフィスも開設した。



## 帰国報告会

2011年4月25日から27日まで、モスクワで開催された「国際医療ビジネスフォーラム・生命のためのイノベーション・テクノロジーIN Moscow」での出来事を、北九州市国際会議場にて帰国報告会を行った。ロシアへ興味がある行政機関の参加者で会場はいっぱいとなった。



オーポラロシア福岡・田村文彦会長



九州経済産業局 国際部長 木佐貫純也氏



北九州市産業経済局貿易振興課  
上野 浩氏



医療法人天神会  
大嶋鋭生氏



(株)システム環境研究所  
福島和仁氏



(株)東洋硬化  
小野賢太郎氏



医療法人透現  
藤井利雄氏

「国際医療ビジネスフォーラム・生命のための  
イノベーション・テクノロジー IN モスクワ」  
収録ビデオを見る北橋健治・北九州市長



## ロシア経済団体 北九州市に 事務所開設

ロシア最大の政府直轄経済団体「オーポラロシア」(セルゲイ・ボリソフ会長)は11日、北九州市小倉北区のアジア太平洋インポートマート(AIM)に、日本事務所「オーポラロシア福岡」(田村文彦会長)を開設した。日本全国の企業情報を集積してモスクワ本部へ報告し、両国の企業のビジネス展開を支援。日本の先進的な産業・環境技術の輸入促進を図る。

オーポラロシアはプーチン首相の肝いりで2009年1月に設立され、ロシアの中小企業125業種約50万社が加盟。政府の中小企業発展委員会副議長も務めるボリソフ会長が昨年11月、北九州市を訪れて事務所設置を表明していた。事務所には職員1人が常駐する。田村会長は「ロシアでは作られていない製品の製造会社を報告するなど、両国の企業の橋渡し役になりたい」と話している。また、同事務所はこの日、北九州市と経済交流促進に向けた覚書を締結した。北部九州とロシアの経営資源を有効活用し、連携しながら経済交流を推進していく。

西日本新聞・記事 (5月12日)

## 北九州—ロシア かける橋

### 市と政府系経済団体、提携

北九州市とロシアの政府系経済団体オーポラロシアが11日、提携した。この日、JR小倉駅前にも事務所「オーポラロシア福岡」も開設された。

事務所の責任者は愛知県の中古車オークション運営会社役員で、ロシアの経済界などと交流がある田村文彦さんが務める。ロシア人スタッフもそろえ、北九州市と協力して九州にある企業のロシア進出や貿易などの橋渡しをする。

ロシアからの観光客の誘致にも取り組み、「医療観光」に力をいれる福岡県久留米市などをロシア国内で紹介することも検討している。

オーポラには中小企業50万社以上が加盟する。昨秋、団体の幹部らが安川電機やTOTTなど北九州市の企業を視察し、環境技術に力を入れている点を知ったことが進出のきっかけになった。

(竹下隆一郎)

朝日新聞・記事 (5月12日)

## あと書き

今年は、モスクワで数々のロシア医療改革の為に国際フォーラムやセミナーが開催予定であるが、オーポラロシア本部とオーポラロシア福岡が共催し、先陣を切り4月25日から27日までの3日間、モスクワに於いて、第1回 国際医療フォーラム「生命のためのイノベーション・テクノロジー」を開催した。

ロシアは、この10年 あらゆるインフラ整備に着手し次々と、先進国並みのレベルに整って来た。しかし、医療界だけは、もつれた糸のように中々思うように進まず、ロシア政府が本腰を入れて改革を断行し始めている。

今回のテーマは、インフラ整備が遅れているロシアの医療界全体に現実の問題として、切実にロシアの医療現場が悩み苦しんでいるテーマに絞り込む。

この事は、改善を行えば、明日からでも実行出来る要素を含んでいる。

日本から医療団として訪問した21名のメンバーと現地で4名が加わり、総勢25名で臨む。医師の立場・メディカルメーカーの立場・メディカルディーラーの立場・医療用製薬ディーラー立場・病院及びクリニックを設計者の立場で、膝づめの意見と提案を行って来た。

あらゆる面で有利な立場であった事は訪問したメンバーは良く理解出来た事だと思う。東日本大地震の最中に出発準備を進めて来たが、勇気あるメンバーに対して、ロシア政府の医療関係者は、頭を下げていた。全ての始まりは、一番であり、二番では無い。今回の訪問は、ロシア側が認めた大いなる一番と言う勲章を手に入れた仲間となった。